

令和2年度 宮崎県立宮崎西高等学校・宮崎西高等学校附属中学校 学校評価（自己評価および学校関係者評価）

<p>学校経営方針</p>	<p>未来イノベーションを牽引する人材を育成する中高一貫した STEAM プログラムの推進 ○進学校・中高一貫校としての県民からの厚い信頼と高い期待に応え、生徒一人一人の潜在能力を引き出し、将来の宮崎、日本、世界を牽引する人材を育成する。 ○STEAM 教育の拠点校として、「感性」(ART)と「理性」(STEM)が融合した主体的・対話的な深い学びを展開し、「知識・技能」に加え、「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう人間性」を育成する。 ○普通科と理数科が共に切磋琢磨し協働する中で、探究的な活動を重視し、自ら問いを立てる力や、批判的思考力・協働的思考力・創造的思考力を育成する。 ○自己や他者、多様性や様々な価値観を尊重し、協力しあう豊かな人間性と、様々なことに挑戦し、困難を乗り越える逞しい心身を育てる。</p>	<p>学校関係者評価のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己評価の項目や指標は適切に設定されているか。 ・自己評価の結果は指導等を元にした妥当なものであるか。 ・自己評価の結果を踏まえた成果と改善策は適切であるか。 <p>評価段階</p> <p>4:期待以上 3:ほぼ期待通り 2:やや期待を下回る 1:改善を要する</p>
<p>本年度の重点目標</p>	<p>資質能力の育成 「STEMによるものの見方の習得や批判的思考力の育成」「自主的に学びに向かう力を育成するカリキュラム・マネジメント」 豊かな人間関係の醸成 「ART(感性・芸術・美意識)の重視」「多様性の尊重」「前向き思考」「試練を乗り越える逞しい人間力」 命の教育の推進 「生命・人権尊重」「自他肯定感の育成」「危機に対応できる力の育成」「家庭・地域との連携」「郷土愛育成」「生涯を支える健康と活力の育成」</p>	

	評価項目	主として目指す資質能力	取組	方策・手だて、結果の考察・分析及び改善策など	自己評価	学校関係者評価及び具体的意見	
						数値	コメント
資質能力の育成	① SSHの推進のためのカリキュラムマネジメント	知識・技能 思考力 判断力 表現力 感性 探究心 主体性 協働力 創造力	① 中高一貫教育6年間を見通した、キャリア教育、学校行事等、SSHの在り方を考える。	① SSH 先進校視察を行い、情報収集を行い、研究に生かすことができた。教育課程、教育プログラムの検討、西附の「感性・探究・サイエンス・プレゼンテーション」の総合的研究を行い、次年度のカリキュラム案を作成することができた。	① 3	① 3.2	○STEAMプログラムは、カント哲学の感性(感じること)と理性(考えること)にもつながるよいプログラムであり、本質を捉えて進めることができる。但し、生徒にとって実践可能なプログラムになるかどうか課題である。個別の能力に応じて、熟考する時間を与え、全ての生徒にとって意味のある取組ができるようにしてほしい。 ○ 試行錯誤が必要な1年目。職員で課題意識を共有することが難しいのではないかと。先生方のチームとしてアイデアや動きを期待したい。大学に比べ、高校は職員一人が指導する生徒数が多い。生徒同士で学び合い、高めあうことが西高の文化として育つとよいのでは。 ○中学部から「きみろん」の取組が繋がっているのがとてもよい。 ○今後も、今期同様の取組を期待する。 ○6年間通じてのキャリア教育は大きな財産。 ○学校の教育目標や生徒のニーズ等をふまえ、先進校の取組なども参考にした学校独自のカリキュラム作成は、効果的な教育を実施していくために重要だと考える。本項目への記述が妥当かどうかはわからないが、本評価指標そのものも「資質・能力」の育成を主眼とした新教育課程の理念を先取りして取り入れており、本校がカリキュラム研究に取り組んでいる姿が明確に捉えることができる。今後もそのような努力を期待する。
	② 併設型中高一貫校としての魅力ある教育課程の推進と高い進路目標の達成（東大10 難関大学50 医30 宮大70 国公立300)		② 超難関講座、難関講座等を通じて、学力のレベルアップを図るとともに、よりきめ細かな個別添削を行う。	② 年間5回の面談週間や大学等の出張講義を取り入れるなど朝夕の課外および土曜講座の充実を図ることができた。校外で行われている医師体験や看護体験等の職業体験、講演会や大学説明会等を適宜案内し、積極的な参加が見られた。特に WEB で行われる行事への参加が目立った。	② 3	② 3	○コロナ禍で WEB のものが増えたので今後案内を充実させれば生徒が自由に選ぶことができ時間拘束なく参加できる。 ○生徒にとって、体験学習は学習意欲を高めるために有効と思われることから、積極的に実施してもらいたい。 ○オンライン講座で得られるものは一般社会でも大きく、今後も活用してほしい。

	③ 探究活動の推進と評価方法の研究		③ 授業研究会の計画的な実施と 目指す生徒の姿の明確化	③ 年間3回の未来授業研究会を行い、元校長の講義、指導 教諭の実践発表、教科研究会等を行い、求められる授業 「問いを立てる授業」の姿を共有することができた。また、 SSH の取組で育成する生徒の資質能力についてのルーブ リック評価表を作成することができた。	③ 3	③ 3	○授業研究会の取組を HP で見た。西附の様子はこれか らも続けてほしい。高校も「きみろん」で充実してきた。 ○今後も、今期同様の取組を期待する。 ○新しい教育課程では、学力観が知識中心から資質・能 力中心へと大きく転換しており、本校がそれに合う授業 や評価態勢の構築に取り組んでいることをうかがい知る ことができる。先生方のより主体的で継続的な研修を期 待する。
	④ 図書館の充実と読書や NIE の推進		④ 読書環境整備と広報活動及び 教科等におけるNIE推進	④ 学校図書館司書を中心に機能的な図書館運営や定期的 な図書館通信の発行を行った。中学校社会科では、中学生 全員が新聞スクラップを行っている。	④ 3	④ 3.2	○HP で確認したが例年より内容がよい。 ○IT 時代こそ、NIE 教育を推進していくことが大切だと思 う。
	⑤ 小論文(きみろん)、各種コンクール等の指 導の充実		⑤ きみろんポスターセッション及び 外部大会へのエントリー	⑤ 論文(きみろん)をもとに、協働活動、論文作成、プレゼン テーションを実施することができた。優秀作品については、 SSH 生徒研究発表会、MSEC フォーラム動画発表に出場 して評価を受けた。また、第 64 回日本学生科学賞県知事 賞(化学部)、物理チャレンジ全国大会銅賞、生物オリンピ ック最終選考に 3 名選出などの成績を残すことができた。	⑤ 4	⑤ 4	○プレゼンカの有無は大切。しかし、それだけではなく、共 有力がないと残れない。生徒は、学校とは異なる環境 で、異なる世代とふれあうことが大切。 ○素晴らしい作品がたくさんあるように感じた。このように 作品を外部へ提出していくとよい。少し手を加えれば規 程に合うものに変化できそう。 ○外部大会に積極的に参加し、結果を出すことは素晴らし いことだと思う。 ○素晴らしい成果だと思う。ぜひ次年度もトライしてほしい。 ○理数科の取組として始められた「きみろん」を、数年前か ら普通科にも拡大して実施するようになったことで、学校 全体での探究的な学習への理解が深まり、その実践に よる成果が出てきているのではないかと思われる。
	⑥ ICT 等の有効活用の研究と ICT 環境整備 の推進		⑥ ICTプロジェクトチームによる ICT 環境整備	⑥ 校内の全教室に、プロジェクター、スクリーン、Wi-Fi 環境 を整備し、教師用と生徒用のタブレット配置を進めることが できた。コロナ禍の朝陽祭では、体育館での発表の様子を 教室にいる生徒や保護者向けに LIVE 配信することができ た。ICT 活用についてはさらに研究を深めたい。	⑥ 3	⑥ 3	○外部配信の充実は十分確認できた。オードリータン氏と の取組なども対応できていてよかった。 ○先生方の知恵で子どもたちの思い出に残る朝陽祭がで きたようだ。 ○今後も ICT 環境整備を推進してもらいたい。 ○ICT 環境は平時での指導体制の構築がカギだと思う。 先進県との情報共有等、進化されることを期待する。 ○ICT 環境を整備し、授業や学校行事などで多様な活用 を行っている様子がうかがえる。様々な課題が出てきて それを解決していくという導入期から、基本的な操作が できる安定的な段階を経て、様々な使い方が工夫されて 主体的に ICT を使いこなしていける活用的な段階に移 行していくことを期待する。
豊 か な 人 間 性 の 醸 成	⑦ Art(感性・芸術・美意識)の重視と、多様 性の尊重	感性 判断力 主体性 行動力 自他肯定力 協働力 想像力 道徳心	⑦ 感性を育む体験活動	⑦ 予定していた芸術鑑賞教室はコロナ禍で中止となっ たが、中学校では特色ある教育活動「感性」の時間に落語、 短歌作成などを行った。高校では文化部の生徒が県高校 総合文化祭へ参加し感性を磨いたが、校内における感性を 育む活動は不十分であった。	⑦ 2	⑦ 2.8	○コロナ禍であったので難しかったと思うが、朝陽祭へ主 体的に取り組むことが十分な感性への働きかけと思う。 そこへ打ち込むことができるように配慮していけばよい。 ○休校期間が長かったので致し方ないと思う。 ○コロナ禍においても工夫して取り組むことができている のではないか。 ○コロナ禍でもできる感性教育は ICT 活用で成立する部 分もあるのではないか。

							○コロナ状況下での例年通りの活動が難しかったと思われるが、「Art」を芸術・文化に関する行事的な活動に特化して考えるのではなく、日々の生徒の生活場面における感受性や創造力、表現力をはたらかせるような活動を活かす方法も考えると良いのではないかと。コロナ禍でもできる「Art」とはどのようなことかを生徒に考えさせるのも良いように思う。→朝陽祭の生徒会を中心とした取組も「Art」に位置付けられるのではないかと。多様な考え方、人とは違う発想など、まさに多様性を大切にすることが、新たな問題解決の基盤になることが、このような活動を通じて生徒に示せるようにも思う。
	⑧ キャリア教育や主権者教育の推進		⑧ YUME 講座の開催や学部学科講座等進路実現に関する指導と年間1回の主権者教育	⑧ 規模を縮小したり、形態を工夫したりすることによって保護者が自分の職業を語る YUME 講座や大学の先生に模擬講義を行ってもらった学部学科講座を実施することができた。高校生に対しては ICT を活用して主権者教育を実施することができた。	⑧ 3	⑧ 3.2	○年度当初やらない方向で進みそうだった YUME 講座を、形を変えてやっていただけただけでも本年度は十分だと思う。 ○今後も、今年同様の取組を期待する。
	⑨ 生徒会を主体とした学校行事や特別活動等の充実		⑨ 生徒会を中心とした学校行事の運営	⑨ コロナ禍での朝陽祭の在り方を生徒会実行委員会とともに考え、感染症防止対策を徹底した朝陽祭や遠足を実施した。朝陽祭の生徒の活躍の様子はマスコミにも取り上げられた。	⑨ 4	⑨ 4	○生徒主体は、可能性があふれていて素晴らしい。 ○学校行事では、制限もあり大変だったと思うが、生徒にはよい思い出になると思う。 ○様々な行事が中止となる中で工夫して行われていた。
	⑩ 挨拶、清掃、返事、礼儀等、規範意識の育成		⑩ 各クラスや授業中の常時指導や率先垂範及び生徒会集会や部活動生集会等における指導	⑩ 全校生徒に対して課題を投げかけ、規範意識を高める指導や、西高プライドを意識させる呼びかけを行った。定期的に耕心(清掃)オリエンテーションを行い、清掃の進め方について確認を行った。	⑩ 3	⑩ 3	○生徒の人間性の成長を感じる。学校の管理下でなくても、人として、自分で考えて正しい行動ができる生徒を育ててほしい。 ○これはもう、指導するというより身につけているような気がする。これ以上指導しなくてもよいような気がする。 ○マスク着用の意義が理解できていないのか。着用の徹底ができるまで半年以上かかっていたようにみえる。 ○今後も規範意識の醸成に努めてもらいたい。
	⑪ 部活動やボランティア活動等の推進		⑪ 部活動基本方針の遵守と全国、九州、県大会上位入賞を目指した活動	⑪ 部活動活動方針を周知し、メリハリのある部活動指導を行っている。陸上、テニス、水泳など、県大会優勝など、上位入賞を収める部活動が多く見られた。	⑪ 3	⑪ 3.4	○忙しいスケジュールの中、部活動もよくこなしている。メリハリがあるのだと思う。 ○今後もメリハリのある指導で上位入賞を期待する。 ○これだけ練習にも規制がある中で十分な成果だと思う。
	⑫ スマホ、SNS の在り方の指導を通じて、自己管理能力の育成		⑫ 生徒や保護者とともに考える学校の規則やマナーづくり	⑫ 古くからある校則やスマホの持ち込みについて、生徒会、PTA、学校職員等による意見交換会を行いながら、生徒主体によるルール作りを支援している。	⑫ 2	⑫ 2.4	○ SNS トラブルが増加している。人権侵害の犯罪があったときは、生徒から学校に相談できる関係があるとよい。SNS トラブルに関する教育が必要である。 ○生徒主体でルール作成を行わせることはよいこと。
命の教育の推進	⑬ 生命・人権の尊重と自他肯定感の育成	判断力 自他肯定力 主体性 行動力 協働力 道徳心	⑬ いのちを大切にしている教育、健康講話、薬物乱用防止教室及びライフスキル教育	⑬ 宮崎県いのちを考える週間(7月第1週)を中心に、計画的にいのちを大切にしている教育を行ったり、生徒の発達に段階に応じて必要な知識やスキルを身に付けさせたりするようにした。	⑬ 3	⑬ 3	○学校の教育プログラムはすばらしく、よい大人に成長すると思うが、すべては命あってできるものである。 ○十分されているのだと思う。⑮は防災のみにしてもよいのではないかと。 ○専門家など、部外講師による指導を積極的に行ってほしい。 ○臨時休校があつて授業時間数が逼迫する中で、このような時間をきちんと確保されていることは大切だと思う。

<p>⑭ 家庭と連携した新型コロナウイルス対策の徹底と、危機に対応できる力の育成</p>	<p>⑭ 感染予防対策の徹底と周知活動</p>	<p>⑭ 新型コロナウイルス感染症対策として、必要な情報を積極的に収集し、学校として必要な安全対策を講じるとともに、保護者や地域に対して協力を得られるよう周知に努めた。</p>	<p>⑭ 3</p>	<p>⑭ 2.8</p>	<p>○コロナ禍において、学校が様々な工夫と苦勞をしていることが分かった。感謝したい。 ○初期の対策がニュースで取り上げられていた。十分に対応されていた。 ○学生の意識に大きな差があったように見える。特に校外でのマスク着用の意識。 ○特にクラスター対策を講じておく必要がある。</p>
<p>⑮ 人権教育、性教育、防災教育等、生命や健康を大切にす教育</p>	<p>⑮ 人権教育、性教育、防災教育等生命や健康を大切にす教育</p>	<p>⑮ 全校生徒分の備蓄非常食、緊急避難場所の調査、個別引き渡し票を整備し、防災学習と抜き打ちの避難訓練を企画するなど、様々な事態に主体的に対応する能力の育成に努めた。</p>	<p>⑮ 3</p>	<p>⑮ 3</p>	<p>○⑮と内容が似ているのでは。 ○防災への意識付け、対応能力の育成に努めてもらいたい。</p>
<p>⑯ 道徳教育の推進と、いじめの未然防止</p>	<p>⑯ いじめアンケートと教育相談</p>	<p>⑯ 年間4回のいじめに関するアンケートと年間3回の教育相談の場を設定し、気になる生徒に対して個別相談を行った。</p>	<p>⑯ 3</p>	<p>⑯ 2.8</p>	<p>○十分されている。 ○いじめについては潜在化しないように努めてもらいたい。 ○相談回数はもっと増やすべきでは。 ○コロナ状況下での生徒の心理状態の変化による影響もあったのではないかな。</p>
<p>⑰ 生徒支援・教育相談体制や特別支援体制の充実</p>	<p>⑰ 生徒理解と不適合生徒への支援体制</p>	<p>⑰ 定期的に教育相談委員会を開き、支援が必要な生徒に対するケース会や不登校対策委員会を実施することができた。積極的に外部機関と連携し、職員研修や学校不適合生徒への対応を進めることができた。</p>	<p>⑰ 3</p>	<p>⑰ 3</p>	<p>○不登校＝不適合でもないのかなと思う。支援は十分にしてくださっているように思う。 ○積極的な外部機関との連携が必要である。 ○特別支援教育の推進は宮崎県教育振興基本計画の施策にも掲げられており、引き続き特別支援体制の充実に取り組んでいていただきたい。 ○将来の夢が明確な生徒が育っている。一方で、強いストレスを感じている生徒も多い。学校の業務を整理し、先生が生徒と向き合う時間を確保してほしい。</p>
<p>⑱ 広報や SNS 等を活用した発信、各種通信等の充実</p>	<p>⑱ PR活動の充実</p>	<p>⑱ 校長通信「大空」や図書通信等を発行し、HP で公表している。また、オープンスクールと中学校説明会について、参加された方が本校生徒の活動場面や教育活動に触れたり、動画配信を活用したりすることで、多くの方々に本校の魅力をより理解してもらえようとした。</p>	<p>⑱ 4</p>	<p>⑱ 3.6</p>	<p>○「大空」やオープンスクールで学校の考え方が、STEAMによりよく分かる。単に受験だけの西高でないことがうれしく思う。 ○オープンスクールは好印象だったご家庭が多かったようだ。一方、進学先として考えないという結論に至ったご家庭もあった。 ○学校説明会の動画配信は多くの方々に情報発信することができた。今後も実施してもらいたい。 ○SNS 等をもっと活用して自信と誇りにつながるような発信を期待する。 ○ICT を活用した広報活動において、生徒が中心となって活動している姿が伝わってくるものになっている点が大変良い。内容の適切性や発信後の影響等、情報モラルに配慮しつつ生徒の発想も活用しながら進めてほしい。</p>
<p>⑲ PTA 活動の充実と、同窓会、卒業生等との連携強化</p>	<p>⑲ 地域や保護者への情報発信と協力依頼</p>	<p>⑲ PTA や外部機関と連携し、中高合わせて年間8回の交通立ち番見守り活動を行うとともに、登下校時のマナーアップについて生徒、保護者に対する呼びかけを行った。また、マメールや HP を活用して、情報発信に努めるとともに50周年記念式典等に向けた取組を進める。</p>	<p>⑲ 3</p>	<p>⑲ 3</p>	<p>○コロナ禍で思うようにできなかったと思うが、なくなりかけたYUME講座が12月に開催されていたのがよかった。 ○登下校時の交通事故防止については、生徒のみならず、保護者への指導も必要であると思われる。</p>